

未完美術館 - 第二形態 -

~未完美術館のリノベーションと使用用途の拡大~

橋本雅好研究室 企画 竹島由真

●未完美術館について

名古屋市名東区にある西山商店街の一角に位置する複合施設であり、「ニシヤマナガヤ」の裏手に位置した小さな倉庫をコンバージョンして生まれた美術館。
この未完美術館の特徴は、展示や館内の改修を繰り返しながらゆっくりと完成されていく美術館であるという点。
植村康平建築設計事務所と橋本雅好研究室の先輩方によって内装の改修が行われ、2020年9月にオープンを迎えた、今年で5年目を迎えた。



●課題点

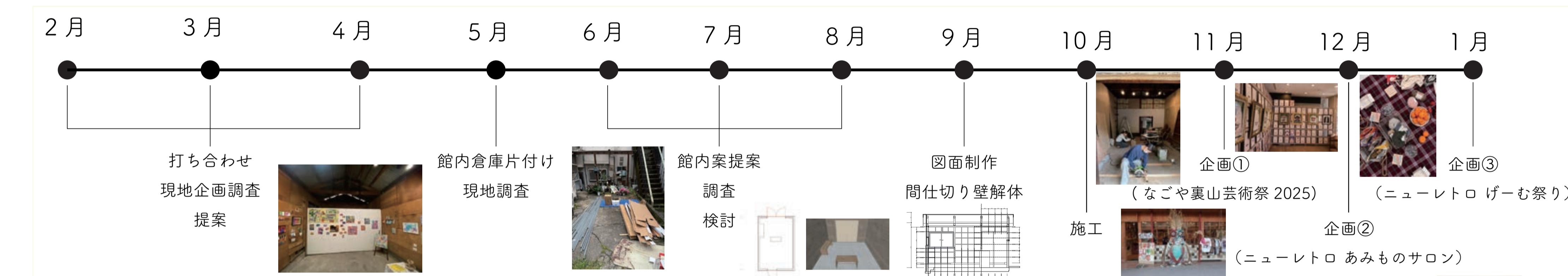
- ・展示の頻度が年に2、3回（10日間）程度
- ・立地的にも知名度が低いということ
- ・料金／予約／利用システムが確立していない
- ・館内の環境（室温、衛生面）
- ・西山商店街を訪れる人が少ない

●目的

- ・未完美術館第二フェーズへの移行
- ・用途の拡大と利用頻度を向上させ、商店街を印象付ける
1つの要素として確立をさせること
- ・西山商店街に新たな文化を創造する



●活動スケジュール



●企画① なごや裏山芸術祭 2025



開催日時：2025年11月毎週土・日・祝、25・26日
(12日間)
10:00～17:00

累計来場者数：634名

目的
地域を巻き込んだ大規模イベント
「短時間でじっくり鑑賞」

なごや裏山芸術祭 2025 とは、

これまで芸術文化の発信が少なかった
名古屋市東部で初めて開催する芸術祭。

西山商店街を巻き込み、空き店舗なども活用し、
複数箇所を展示会場とし、開催した。

本企画は、クリエイティブリンク・ナゴヤ助成事業協力の元
開催され、改修後の企画の中で最も規模が大きく、未完美術
館および西山商店街の知名度を上げることに成功した。
また、改修後の未完美術館は

メインアートであるヤスダキヨシさんの作品
「Book Box」の展示場として使用した。



●企画② ニューレトロ あみものサロン

開催日時：2025年12月21日(日)
11:00～17:00

地域共創実践 A・B の西山商店街ニューレトロ化
計画と連携し、あみものサロンを開催した。
Instagram で参加者を事前募集した。

定員 10 名のところ 4 名の参加者が集まった。
当日はヒアリングも行ない、企画についての
満足度や参加者の特徴を調べた。



●企画③ ニューレトロ げーむ祭り

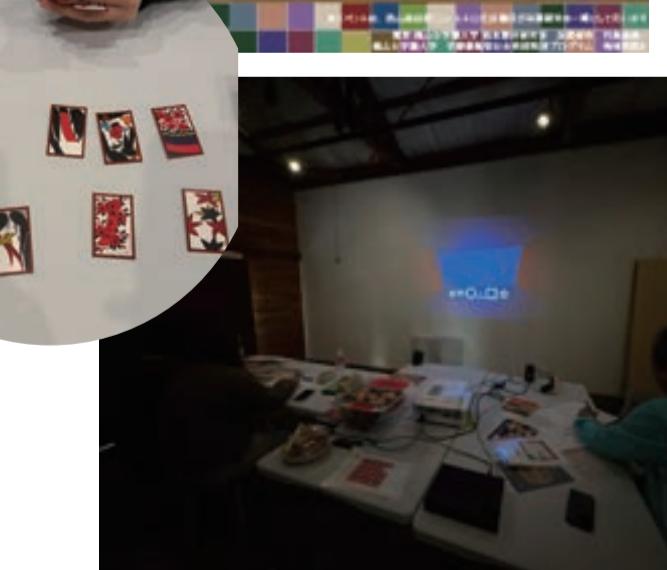
開催日時：2026年1月17日(土)
11:00～16:30

地域共創実践 A・B の西山商店街ニューレトロ化
計画と連携し、ゲーム祭りを開催した。

Instagram で告知を行い、当日の参加者は 5 名
と予定よりも少ない集客となった。

しかし、イベントの満足度は高く、結果として、
長時間の滞在に適した空間であることがわかった。

また、本企画ではプロジェクターを使用したゲームも
行い、未完美術館の新たな使い方を提案できる実績を収め
ることができた。



●企画まとめ

「なごや裏山芸術祭 2025」→大規模な企画の集客拠点

告知方法として、商店街を巻き込んだイベントであったことに加え、関係者、協力者による公式または個人 Instagram での宣伝や新聞紙掲載など人の目に付きやすい告知が十分できていたことから知人や近隣住民だけでなく、初めて西山商店街を訪れる人がいたりと、認知度の拡大と集客という点において、とても効果的な企画となった。

「ニューレトロ化計画」→小規模で長時間滞在しても快適であるスペース

アンケート結果からは、企画内容や未完美術館の空間環境については高い評価が得られ、参加者が滞在しやすく、少人数での交流や体験型イベントに適した空間であることが明らかとなった。一方で、未完美術館自体の認知度やイベント告知方法に課題があり、集客面では十分な成果を得られなかつたということがわかった。

→企画目的に合わせた使い分けが可能

■課題

- ・目的来訪型になりやすい立地での偶発来訪型の獲得
- ・集客効果が限定的であること
- ・外部から見る活動状況の不明瞭さ

●館内の整理・掃除

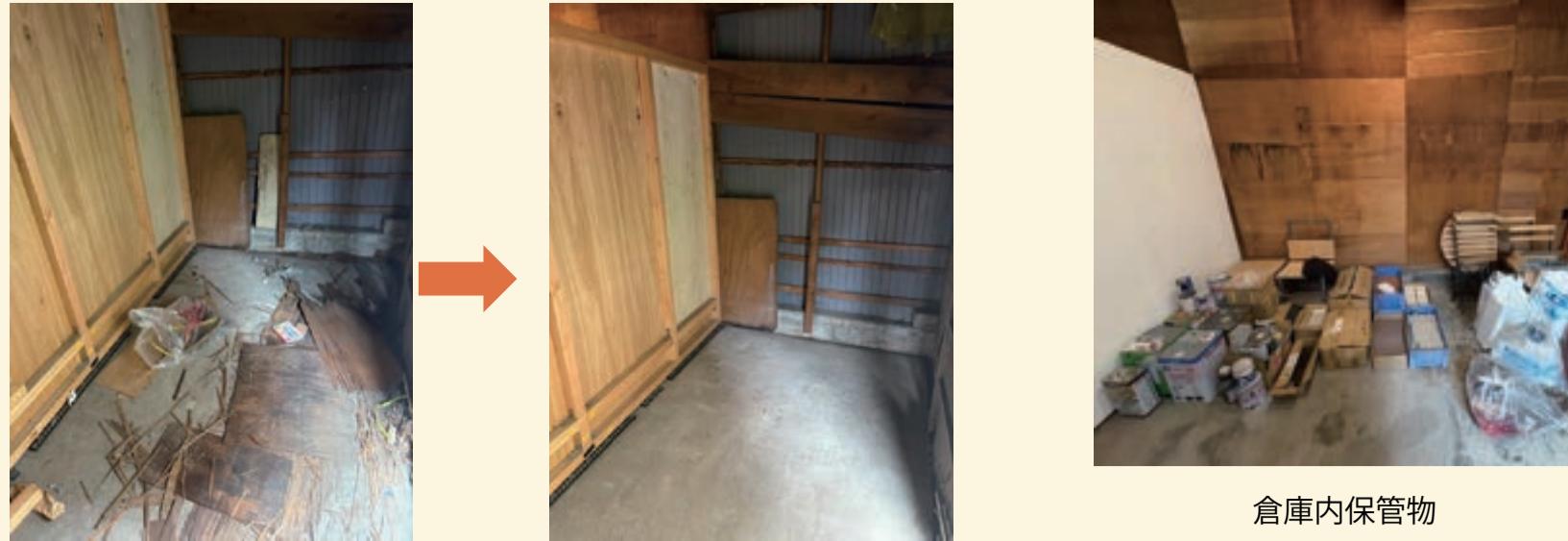
館内のリニューアルを行うにあたり、1段階目として2025年5月30日に

倉庫内の片付けを行なった。

当時、未完美術館内は壁を挟んで2つの空間に仕切られており、

1つは展示スペース、もう1つは倉庫として使用されていた。

この片付けでは倉庫部分の掃除と荷物の整理を行なった。



倉庫内保管物

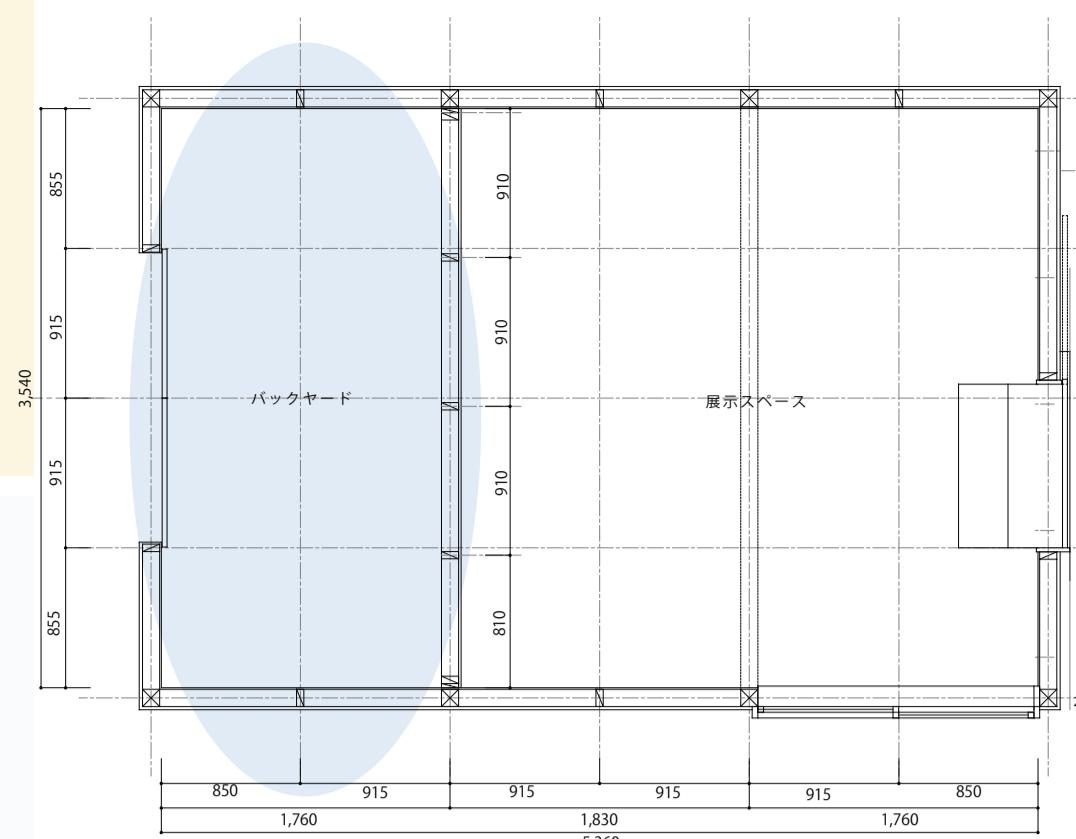
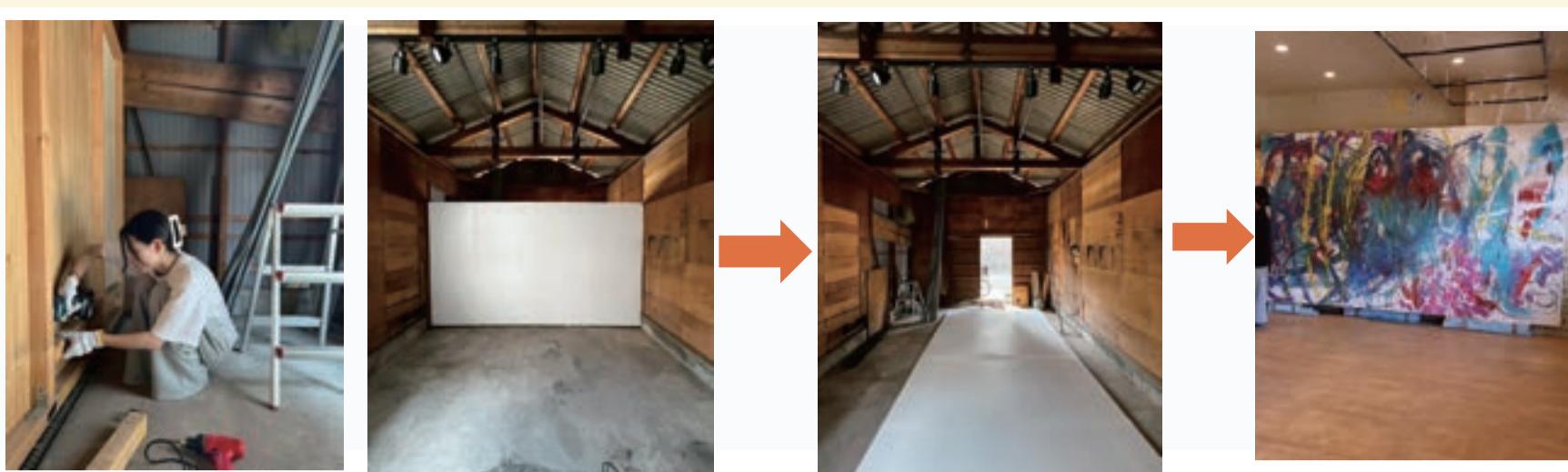
●施工

内壁解体

館内を仕切っていた壁の解体を行なった。

取り外した壁は11月開催のなごや裏山芸術祭2025にて

行われたライブペイントのキャンバスとして使用した。



既存平面図



■断熱材

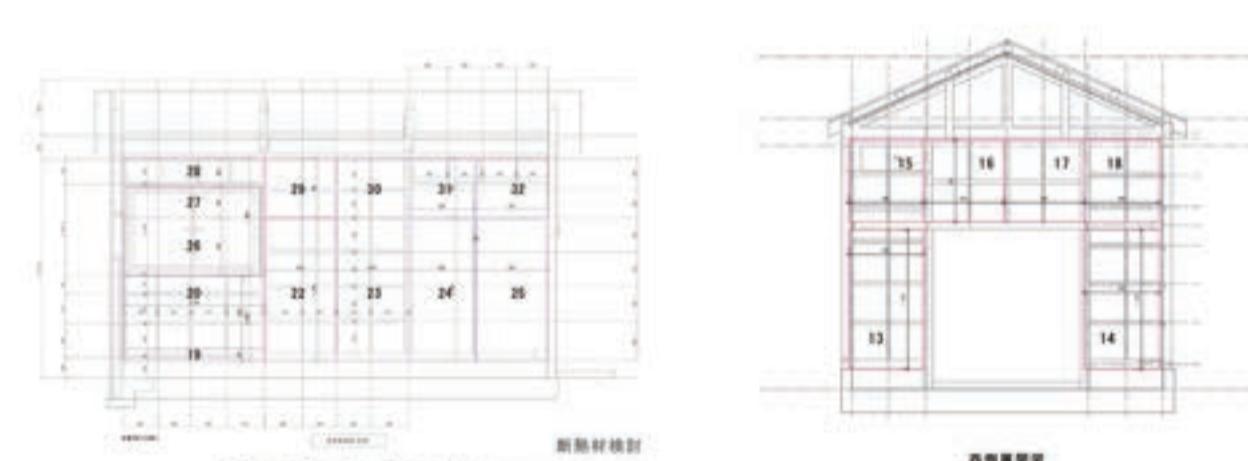
使用材料・・・グラスウール



施工方法・・・躯体vにタッカー留め

■面材張り

使用材料・・・1800×910 厚さ5mmのラワンベニヤ 22枚、1800×910 厚さ12mmのラワンベニヤ 3枚



施工方法・・・ラワンベニヤを指定の寸法に切り出し、北側、南側、西側、東側の壁面に使用した。いずれも、ビスで固定した。

■小屋組み・軒桁下部断熱材

使用材料・・・スタイロ



施工方法・・・カッターで切り出して塗装後はめ込む

■塗装

使用材料・・・水性アク止めシーラー、水性多用途つや消し塗料



施工方法・・・館内を養生後、下地となるアク止めシーラーを塗布してからホワイト塗料を壁とスタイロに塗装。

■西側デザイン壁

使用材料・・・木工用ボンド、ラワン合板の端材



施工方法・・・壁の解体時に得たラワン合板の端材をランダムに組み合わせて
木工用ボンドで1枚ずつ糊付け。扉（外側）にも端材を使用。

■東側デザイン壁

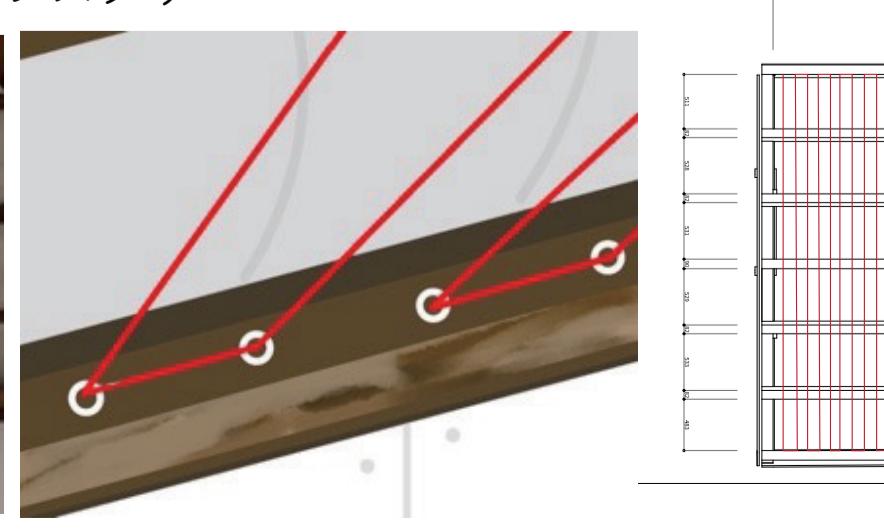
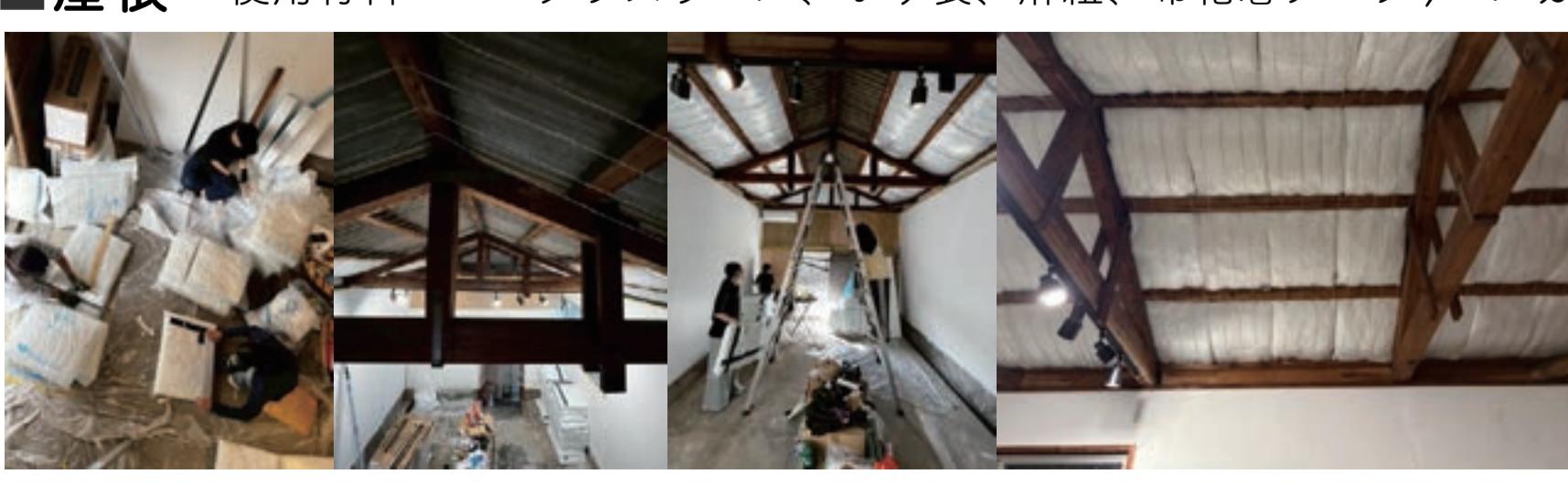
使用材料・・・モルモル、西山中公園の落ち葉と枯れ枝



施工方法・・・1回目の改修で先輩方がモルモルでデザインをした壁同様に使用材料をモルモルと西山中公園の
落ち葉と枯れ枝を使用した。扉（内側）にもモルモルを塗布

■屋根

使用材料・・・グラスウール、ポリ袋、麻紐、布粘着テープ、マルカンスクリュー



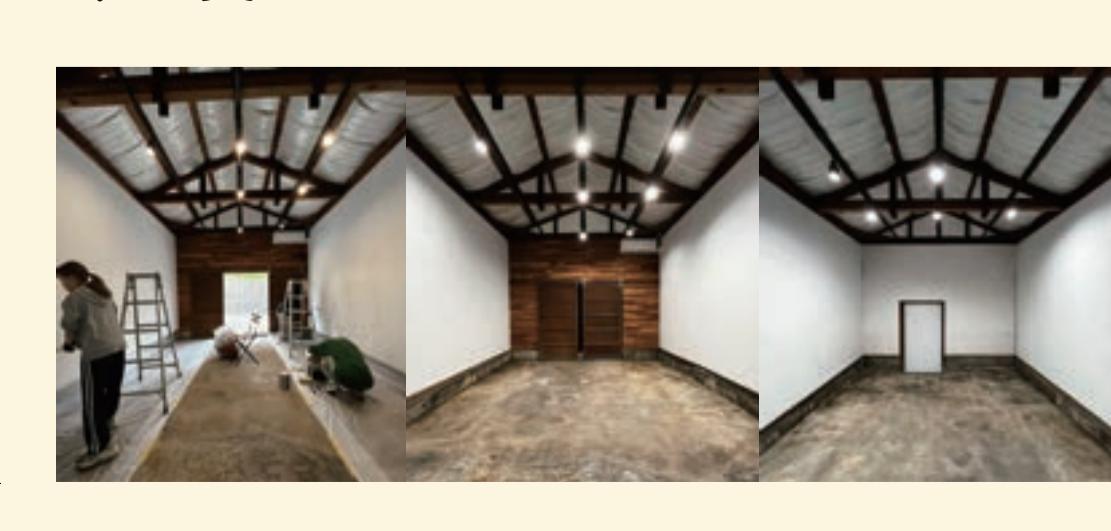
施工方法・・・430幅のグラスウールを590mm間隔で裁断し、ポリ袋に詰め直したものを計72個制作した。

屋根梁幅に作り直した断熱材は、屋根梁にタッカーで固定を行なった。

次に、138個のマルカンスクリューを軒桁と棟木に等間隔で固定し、そこに断熱材の落下防止のための麻紐を張り巡らせた。

■床塗装

使用材料・・・コンクリート用防塵塗料



施工方法・・・床の掃除後上記塗料をローラーと
刷毛を使用して2度塗りした。